



# 監視オプション for Oracle Ver.5.0

「Oracle 監視(表領域の使用容量・使用率)」監視項目の仕様変更について

## 目次

仕様変更について .....4

注意点について .....5

## 本ドキュメントについて

本ドキュメントは Oracle オプションで使用している以下のモジュールについて記述しています。

BomDBMon32.exe

更新日時:2013 年 11 月 12 日、21:24:21

ファイルサイズ: 640 KB (655,872 バイト)

ファイルバージョン: 5.0.44.0

BomDBMon64.exe

更新日時:2013 年 11 月 12 日、21:24:37

ファイルサイズ: 917 KB (939,008 バイト)

ファイルバージョン: 5.0.44.0

## 仕様変更について

これまで、Oracle 監視(表領域の使用容量・使用率)では、「V\$TEMP\_SPACE\_HEADER」を参照していました。

Oracle Database 11g では、取得した値が 0 バイトで取得されており、監視する対象として適切ではないと判断し、以下のテーブルスペースから値を取得する様変更いたしました。

仕様変更対象の監視項目	: Oracle 監視(表領域の使用容量・使用率)
対象テーブル	: TEMP

### 【変更前取得対象】

ビュー名	: V\$TEMP_SPACE_HEADER
列	: BYTES_FREE

### 【変更後取得対象】

ビュー名	: DBA_TEMP_FREE_SPACE
列	: FREE_SPACE

※「DBA\_TEMP\_FREE\_SPACE」ビューは Oracle11g から実装されたビュー名です

なお、監視対象が Oracle 9i, 10g であった場合には、変更前の取得対象にて監視が行われます。

## 注意点について

新しいモジュールへ変更した際に、以下の点に注意していただく必要が有ります

※監視対象が Oracle11g である場合についての注意事項です

### ・過去の監視ログについて

「Oracle 監視(表領域の使用容量・使用率)」監視項目をすでに作成し、監視を実施していた場合、新しいモジュールへ置き換えたのち、監視を継続すると過去のログと混合いたします。

該当モジュールを適用していただく際には、監視項目を改めて作成していただくか(監視項目のグループ番号が重複しないこと)、監視ログを削除のうえ監視を実施してください。

※なお、アーカイブデータについては、監視項目(監視グループ番号を既存のグループとは別)を別で作成することによりデータが混合してしまうことを回避できます

### ・しきい値について

情報取得先のビューが変更になる為、しきい値については改めてサイジング後設定をしてください。

監視オプション for Oracle Ver.5.0  
「Oracle 監視(表領域の使用容量・使用率)」監視項目の仕様変更について

---

2014 年 1 月 6 日 初版  
著者 セイ・テクノロジーズ株式会社  
発行者 セイ・テクノロジーズ株式会社  
発行 セイ・テクノロジーズ株式会社

Copyright © 2013 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.

---